



毎月 1 回 1 日 発行
 発行 公益社団法人 全国防災協会

〒103-0011 東京都中央区日本橋小伝馬町 2 - 8
 (新小伝馬町ビル 6 F)

電話 03 (6661) 9730 FAX 03 (6661) 9733

発行責任者 水落雅彦 印刷所 (株)白 橋



那賀川水系那賀川の氾濫で中学校が浸水
 (徳島県阿南市) (H26. 8 台風11号)



土砂災害による甚大な被害 (広島県広島市)
 (H26. 8 豪雨)

目 次

平成26年の水害被害額の暫定値 (全国・都道府県別) について
国土交通省水管理・国土保全局... 2

平成27年台風11号による大雨等に係る被害状況等について.....内閣府... 9

平成27年台風12号による大雨等に係る被害状況等について.....内閣府...14

会員だより 様々な災害復旧事業を通じて
長野県上田建設事務所 田邊 将樹...16

防災課だより 平成27年7月15日から23日までの間の台風11号及び大雨による
 災害復旧事業の査定の簡素化について (お知らせ)
国土交通省水管理・国土保全局防災課...21

人事異動.....21

平成26年の水害被害額の暫定値 (全国・都道府県別) について

国土交通省水管理・国土保全局 HP より抜粋

平成26年の水害被害額の暫定値について公表^{※1}します。

◆水害被害額は、全国で約2,900億円（過去10カ年で7番目）

◆都道府県別の水害被害額上位3県は、以下の通り。

- 1位：広島県（水害被害額：約446億円）
広島市で発生した土砂災害により甚大な被害が発生。
- 2位：高知県（水害被害額：約272億円）
台風12号・11号に伴う立て続けの豪雨により浸水被害が発生。
- 3位：京都府（水害被害額：約229億円）
平成25年に引き続き、福知山市街地で多数の浸水被害が発生。

◆主要な水害による水害被害額及び概要

○台風12号・11号（7月29日～8月12日）（水害被害額：約900億円）

- ・高知県では、台風12号・11号に伴う立て続けの豪雨により、仁淀川水系日下川、宇治川等が氾濫し、いの町で292棟、日高村で310棟の浸水被害が発生した。
- ・徳島県では、台風11号に伴う豪雨により、那賀川水系那賀川が氾濫し、阿南市で342棟、那賀町で372棟の浸水被害が発生。阿南市では、市内の加茂谷中学校の校舎2階まで浸水する被害となった。

○豪雨（8月13日～26日）（水害被害額：約900億円）

- ・猛烈な雨を観測した広島県では、8月20日未明、広島市において、土砂災害等が多発し、死者75名、負傷者68名、全壊175棟、半壊150棟にのぼるなど甚大な被害となった^{※2}。

- ・京都府では、平成25年に引き続き、由良川水系弘法川等が氾濫し、福知山市街地で1,539棟の浸水被害が発生した。



那賀川水系那賀川の氾濫で中学校が浸水
(徳島県阿南市)



土砂災害による甚大な被害
(広島県広島市)

※1 水害被害額の算出に当たって使用する係数（都道府県別家屋1㎡当たり評価額等）の平成26年単価の設定や都道府県からの報告内容の更なる精査等を行い、最終的な取りまとめ結果の公表は、平成27年度末頃になる予定。

※2 死傷者数は、「8月19日からの大雨等による広島県における被害状況及び消防の活動等について」（消防庁作成）の数値を使用。

1. 水害被害額(暫定値)

約 2,900 億円

〔内訳〕

・ 一般資産等被害額	約 1,208 億円(構成比 42.4 %)
・ 公共土木施設被害額	約 1,542 億円(構成比 54.1 %)
・ 公益事業等被害額	約 100 億円(構成比 3.5 %)
計	約 2,850 億円

注) 被害額には、人的損失、交通機関のストップなどによる波及被害、被災した企業の部品・製品供給機能、本社機能等が損なわれることによる他地域の企業への影響等に係るものは含まれていない。

2. 水害被害の概要(暫定値)

(1) 被災建物棟数 **約 28,000 棟**

〔内訳〕	○全壊・流失	262 棟	○半壊	669 棟
	○床上浸水	7,772 棟	○床下浸水	19,503 棟
			計	28,206 棟

※うち地下部分が浸水した建物棟数は 255 棟

(2) 浸水区域面積 **約 12,000 ha**

〔内訳〕	○宅地・その他	3,235 ha	○農地	8,811 ha
			計	12,046 ha

※うち地下の浸水区域面積は 2 ha

国土交通省では、水害(洪水、内水、高潮、津波、土石流、地すべり等)による被害額(建物被害額等の直接的な物的被害額等)等を暦年単位で「水害統計」として取りまとめています。

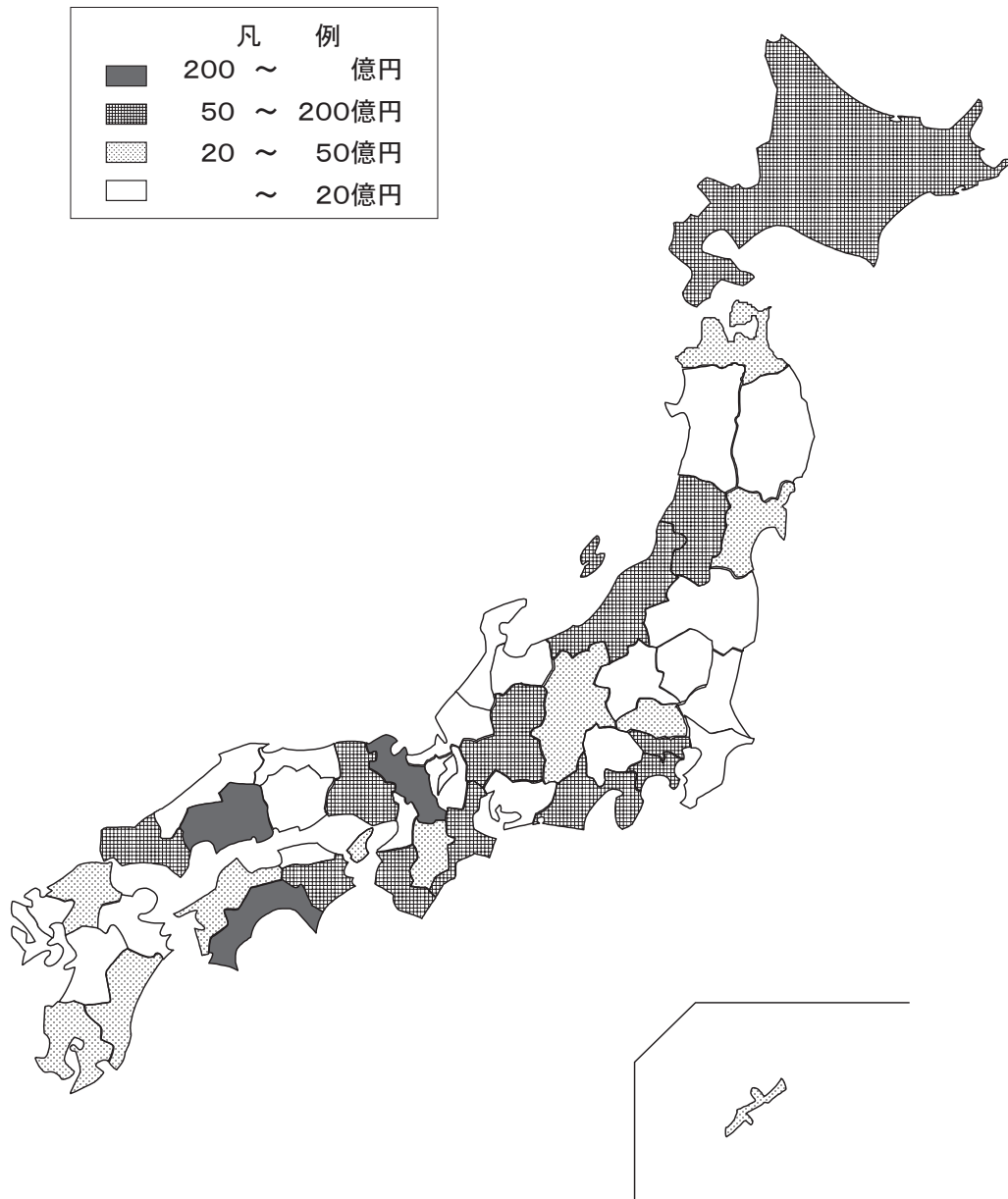
3. 都道府県別水害被害額（暫定値）

（単位：百万円）

	都道府県名	水害被害額		都道府県名	水害被害額
1	北海道	10,726	25	滋賀県	1,304
2	青森県	2,687	26	京都府	22,947
3	岩手県	566	27	大阪府	1,821
4	宮城県	3,571	28	兵庫県	19,606
5	秋田県	1,291	29	奈良県	2,700
6	山形県	14,813	30	和歌山県	9,155
7	福島県	1,557	31	鳥取県	353
8	茨城県	875	32	島根県	733
9	栃木県	729	33	岡山県	609
10	群馬県	490	34	広島県	44,611
11	埼玉県	2,370	35	山口県	6,891
12	千葉県	1,013	36	徳島県	15,792
13	東京都	8,642	37	香川県	860
14	神奈川県	5,291	38	愛媛県	2,107
15	新潟県	5,528	39	高知県	27,202
16	富山県	1,727	40	福岡県	3,076
17	石川県	1,351	41	佐賀県	454
18	福井県	1,659	42	長崎県	1,677
19	山梨県	532	43	熊本県	1,441
20	長野県	4,875	44	大分県	570
21	岐阜県	14,785	45	宮崎県	3,859
22	静岡県	15,970	46	鹿児島県	3,201
23	愛知県	448	47	沖縄県	2,568
24	三重県	9,967		合 計	285,003

注) 四捨五入の関係で、内訳の合計と水害被害額が一致しない場合がある。

(参考)都道府県別水害被害額 暫定値)図



4. 台風12号・11号による水害被害額等（暫定値）

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
<p>約902億円</p> <p>※7月29日～8月12日に生じた台風12号・11号による被害額。</p> <p>〔内 訳〕</p> <p>一般資産等被害額 約266億円</p> <p>公共土木施設被害額 約620億円</p> <p>公益事業等被害額 約16億円</p>	<p>○死傷者数 98名（死者6名 行方不明者0名 負傷者92名）</p> <p>○被災建物棟数 7,450棟 ○浸水面積 3,232ha</p> <p>【 気 象 概 況 】</p> <p>（台風12号）</p> <p>・7月30日頃から、北日本や西日本で雨の日が多くなり、特に四国地方では、降り始めからの雨量が1,000ミリを超える等、8月の月降水量（平年値）の2～4倍となった。また、前線や南からの暖かく湿った空気の影響で、5日夜から中国地方や東北地方で大雨となり、特に山口県では、局地的に1時間に100ミリを超える猛烈な雨の降ったところがあった。</p> <p>（台風11号）</p> <p>・西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、特に、高知県では7日から11日までの総雨量が多いところで1,000ミリを超えるなど、四国地方から東海地方にかけて総雨量が600ミリを超える大雨となった。記録的な大雨となった三重県では、大雨特別警報が発表された。</p>

【 被害状況 】

・台風12号・11号による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。

- 1位：高知県（約241億円）
- 2位：徳島県（約154億円）
- 3位：三重県（約89億円）

・高知県では、台風12号・11号に伴う立て続けの豪雨により、仁淀川水系日下川、宇治川等が氾濫し、いの町で292棟、日高村で310棟の浸水被害が発生した。



仁淀川水系宇治川の氾濫（高知県のいの町）

・また、高知県では、土砂崩れに伴いJR土讃線が1週間以上にわたり運休となった他、四万十町では河川氾濫により浄水場が浸水し、約2,500世帯が1週間以上にわたり断水するなど、ライフラインへの被害も発生した。

・徳島県では、台風11号に伴う豪雨により、那賀川水系那賀川が氾濫し、阿南市で342棟、那賀町で372棟の浸水被害が発生。阿南市では、市内の加茂谷中学校の校舎2階まで浸水する被害となった。



那賀川水系那賀川の氾濫（徳島県阿南市）

・四国各地では、台風12号・11号に伴う豪雨により、高速道路や国道で長時間にわたり通行止めが発生した他、路面冠水や土砂災害により、一部では生活道路が寸断される等、周辺住民に多大な影響を及ぼした。

注) 1. 死傷者数は、「台風第12号及び台風第11号に伴う大雨等による被害状況等について」（消防庁作成）の数値を使用。

2. 死傷者数は、風害等によるものを含む数値である。

5. 豪雨（8月13日～26日）による水害被害額等（暫定値）

水 害 被 害 額	被 害 の 概 要
<p>約 886 億円</p> <p>※8月13日～26日に生じた豪雨による被害額。</p> <p>〔内 訳〕</p> <p>一般資産等被害額 約 507 億円</p> <p>公共土木施設被害額 約 318 億円</p> <p>公益事業等被害額 約 61 億円</p>	<p>○死傷者数 158 名（死者 83 名 行方不明者 0 名 負傷者 75 名）</p> <p>○被災建物棟数 8,660 棟 ○浸水面積 3,426 ha</p> <p>【 気象概況 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月15日から17日にかけて、本州付近に前線が停滞し、前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、東日本と西日本では広い範囲で大気の状態が非常に不安定となった。 ・局地的に雷を伴って非常に激しい雨が降り、16日と17日の2日間に降った雨の量が、京都府福知山市や岐阜県高山市等で観測史上1位を更新する等、近畿、北陸、東海地方を中心に大雨となった。 ・その後も、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、中国地方や九州北部地方を中心に大気の状態が非常に不安定となった。20日3時30分には、広島県で1時間に約120ミリの猛烈な雨を観測した。また、22日4時30分には、福岡県で1時間に約110ミリの猛烈な雨を観測した。

【 被害状況 】

- ・豪雨（8月13日～26日）による都道府県別の水害被害額上位3県は、以下のとおり。

1位：広島県（約417億円）
 2位：京都府（約191億円）
 3位：岐阜県（約134億円）

- ・猛烈な雨を観測した広島県では、8月20日未明、広島市において、土砂災害等が多発し、死者75名、負傷者68名、全壊175棟、半壊150棟にのぼるなど甚大な被害となった。

- ・また、この土砂災害等により、JR可部線が線路などの設備に被害を受け、1週間以上にわたり運休するなど、ライフラインにも被害が発生した。

- ・この災害を契機として、土砂災害の危険性のある区域の明示や円滑な避難勧告等の発令に資する情報の提供、避難体制の充実・強化、国による支援等を盛り込んだ「土砂災害防止法」の改正案が成立、平成27年1月に施行された。

- ・京都府では、平成25年に引き続き、由良川水系弘法川等が氾濫し、福知山市街地で多数の浸水被害が発生した。（平成16年、25年、26年と近10年で3回の浸水被害）。



広島市安佐南区上空からの被災状況



由良川水系弘法川の氾濫（京都府福知山市）

- 注) 1. 死傷者数は、「8月15日からの大雨等による被害状況等について」（消防庁作成）及び「8月19日からの大雨等による広島県における被害状況及び消防の活動等について」（消防庁作成）の数値を使用。
2. 死傷者数は、風害等によるものを含む数値である。

【 参考：水害統計調査の概要 】**1 調査対象水害**

調査対象としている水害は次の事象であり、その規模の大きさを問わない。

- ① 河川に係る洪水、内水等
- ② 海岸に係る高潮、津波等
- ③ 降雨に起因する土石流、地すべり、急傾斜地崩壊等

2 水害統計調査の概要

水害統計調査は、都道府県を通じて実施する次の3つの調査により構成している。

(1) 一般資産水害統計調査

水害によって生じた一般資産の被害額等を把握するため、浸水深別被害建物棟数、被災世帯数等を調査する。なお、一般資産とは、以下の資産を指す。

- ① 建物 ② 家庭用品 ③ 事業所資産 ④ 農作物 等

(2) 公共土木施設水害統計調査

水害によって生じた公共土木施設の被害額等を把握するため、被災施設、災害復旧事業費等を調査する。なお、公共土木施設とは、国土交通省所管の以下の施設を指す。

- ① 河川 ② 海岸 ③ 砂防設備 ④ 道路 ⑤ 港湾 ⑥ 下水道 ⑦ 公園 等

(3) 公益事業等水害統計調査

水害によって生じた公益事業等の被害額等を把握するため、物的被害額、営業停止損失額等を調査する。なお、公益事業等とは、以下の事業等を指す。

- ① 鉄道事業 ② 水道事業 ③ 電力会社 ④ 電気通信事業者 等

3 被害額の算出方法

都道府県、市区町村等において調査し、国土交通省水管理・国土保全局に報告された一般資産水害統計調査等の数値を基に、次の方法により、被害額を算出している。

(1) 一般資産被害額

一般資産水害統計調査の調査結果である浸水深別被害建物棟数等の数値を基に、被害率等の係数を用いて、次のような計算式により「建物被害額」、「家庭用品被害額」、「事業所資産被害額」等に分けて算出している。なお、農作物の被害額は、都道府県からの報告額を合計し、算出している。

《 被害額の計算式：例 》

・建物被害額＝浸水深別・勾配別被災建物延床面積×都道府県別家屋1㎡当たり評価額
×浸水深別・勾配別被害率

・家庭用品被害額＝浸水深別被災世帯数×1世帯当たり家庭用品所有額×浸水深別被害率

・事業所資産被害額＝浸水深別・産業分類別被災事業所従業者数×（産業分類別事業所従業者1人当たり償却資産評価額×浸水深別償却資産被害率＋産業分類別事業所従業者1人当たり在庫資産評価額×浸水深別在庫資産被害率）

(2) 公共土木施設被害額

公共土木施設水害統計調査の報告額（補助事業及び地方単独事業の災害復旧事業費）の合計に、直轄事業の災害復旧事業費を加算し、算出している。

(3) 公益事業等被害額

公益事業等水害統計調査の報告額（物的被害額及び営業停止損失額）を合計し、算出している。営業停止損失額は、営業停止によって生じた売上減少額（水害が発生しなかったとした場合に通常期待される売上額を基準として算定）を計上しているが、公益事業等によっては、貨幣換算化が困難であること等の理由により、公益事業等被害額に計上されていない場合がある。

平成27年台風第11号による大雨等に係る 被害状況等について

内閣府 HP より

※これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。下線部は、前回からの変更箇所。【7月27日時点】

1. 気象状況（気象庁情報）

(1) 概 況

- ・7月4日3時にマーシャル諸島で発生した台風第11号は、16日23時頃、高知県室戸市付近に上陸し、比較的ゆっくりとした速度で四国・中国地方を北上した。17日午後には日本海を北東に進み、18日3時には熱帯低気圧に変わった。
- ・台風や台風に向かって暖かく湿った空気が入った影響で、西日本と東日本を中心に雨量が多くなった。特に、近畿地方では、24時間の積算雨量がこれまでの観測記録を更新し、平年の7月1カ月間に降る雨量を上回る大雨となった。また、西日本で猛烈な風が吹いた他、海上は、西日本と東日本の太平洋側を中心に大しけとなった。

(2) 大雨等の観測状況（7月16日0時～18日24時）

・1時間降水量（アメダス観測値）

高知県魚梁瀬	87.5ミリ	16日 22時55分まで
愛媛県成就社	84.0ミリ	17日 2時06分まで
福島県川内	77.5ミリ	16日 11時37分まで
徳島県木頭	77.0ミリ	16日 23時36分まで
神奈川県丹沢湖	70.0ミリ	16日 6時22分まで
静岡県天城山	69.5ミリ	16日 3時40分まで
徳島県福原旭	62.5ミリ	16日 21時37分まで
山梨県上野原	58.0ミリ	16日 7時27分まで
福島県川前	55.5ミリ	16日 11時58分まで
三重県宮川	54.5ミリ	17日 2時56分まで

・24時間降水量（アメダス観測値）

高知県魚梁瀬	633.0ミリ	17日 10時40分まで
三重県宮川	574.0ミリ	17日 13時40分まで
奈良県上北山	567.0ミリ	17日 3時20分まで
徳島県福原旭	500.0ミリ	17日 4時20分まで
和歌山県西川	495.0ミリ	17日 12時10分まで
和歌山県本宮	483.0ミリ	17日 7時10分まで

和歌山県龍神	481.5ミリ	17日 14時30分まで
奈良県下北山	471.5ミリ	17日 13時20分まで
徳島県木頭	456.0ミリ	17日 4時10分まで
奈良県風屋	442.0ミリ	17日 12時20分まで

・期間降水量（アメダス観測値）

奈良県上北山	718.5ミリ
和歌山県西川	687.5ミリ
高知県魚梁瀬	680.5ミリ
三重県宮川	674.0ミリ
和歌山県龍神	572.0ミリ
和歌山県本宮	557.0ミリ
奈良県下北山	549.5ミリ
奈良県風屋	513.5ミリ
徳島県福原旭	512.5ミリ
和歌山県色川	489.0ミリ

・最大風速

高知県室戸岬	33.9m/s(南西)	17日 0時13分
徳島県日和佐	29.7m/s(東)	16日 22時37分
徳島県蒲生田	26.9m/s(東)	16日 22時15分
和歌山県南紀白浜	25.5m/s(南東)	16日 21時55分
和歌山県友ヶ島	23.3m/s(南南東)	17日 6時17分
東京都三宅坪田	19.6m/s(南南西)	16日 22時03分
和歌山県潮岬	18.9m/s(東南東)	16日 19時00分
山口県秋吉台	18.8m/s(北)	16日 23時29分
岡山県岡山	18.7m/s(東)	17日 3時48分
東京都神津島	18.2m/s(南)	16日 20時13分

・最大瞬間風速

高知県室戸岬	42.6m/s(東北東)	16日 16時01分
徳島県蒲生田	39.9m/s(南東)	16日 23時31分
徳島県日和佐	39.6m/s(東)	16日 21時11分
和歌山県南紀白浜	37.6m/s(南東)	16日 22時20分
徳島県徳島	32.0m/s(東南東)	16日 23時29分

和歌山県川辺 31.2m/s(南南東)17日1時11分
 徳島県穴吹 31.0m/s(北東) 16日23時52分
 和歌山県友ヶ島 30.4m/s(南) 17日6時11分
 香川県引田 30.1m/s(東) 16日23時49分
 和歌山県潮岬 29.8m/s(南東) 16日23時48分

【国土交通省港湾局所管】

和歌山県潮岬 11.6m 16日20時00分
 高知県高知港 6.5m 16日12時00分
 GPS 波浪計 和歌山南西沖 11.2m 16日23時20分
 GPS 波浪計 徳島海陽沖 10.7m 16日18時40分
 GPS 波浪計 三重尾鷲沖 10.7m 16日22時00分
 GPS 波浪計 高知室戸岬沖 10.2m 16日17時00分
 GPS 波浪計 高知西部沖 8.1m 16日11時40分
 GPS 波浪計 伊勢湾口沖 7.7m 16日23時40分
 GPS 波浪計 静岡御前崎沖 6.8m 17日1時20分

(3) 波浪の観測状況 (7月16日0時~18日24時)

・波浪最高値

【気象庁所管】

静岡県石廊崎 6.4m 17日0時00分

2. 人的・物的被害の状況 (消防庁情報：7月24日17:00現在)

都道府県名	人的被害					住家被害					非住家被害		
	死者	行方不明者	負傷者			全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	合計	公共建物	その他
			重傷	軽傷	程度不明								
	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	
福島県										5	5		
茨城県									1	6	7		
栃木県									2	24	26		
群馬県				1						3	3		
埼玉県	1									12	12		
東京都										11	11		
神奈川県				1					1	1	2		
山梨県								1			1		
長野県								1			1		3
岐阜県				1									
静岡県				2									
愛知県				3									
三重県				5									
滋賀県			1	1						1	1		
京都府			1	1		1		13	2	4	20		16
大阪府				8				10		2	12		
兵庫県	1		7	7		1	2	6	4	23	36		
奈良県				1			1	1	1	1	4		
和歌山県								1	5	50	56		
岡山県				3				19	1	11	31		8
広島県			1	1									
山口県			1	3									
徳島県			1	1			2	25	60	159	246		22
香川県				5				1	2	3	6		1
愛媛県				1									
高知県								1		3	4		
福岡県				2									
合計	2		12	47		2	5	79	79	319	484		50

3. その他の状況

(1) 土砂災害(国土交通省情報: 7月24日11:00現在)

ア. 土石流等 (5県で6件)

- ・滋賀県 1件 (高島市1)
- ・和歌山県 1件 (有田川町1)
- ・岡山県 1件 (倉敷市1) ※うち人家半壊1戸
- ・徳島県 1件 (三次市1)
- ・愛媛県 2件 (西条市1、東温市1)

イ. がけ崩れ (19府県で56件)

4. 国土交通省の対応

(1) 体制等

- ・国土交通本省警戒体制 (6月24日18:10)
- ・国土交通本省非常体制 (7月17日1:00)
- ・国土交通本省警戒体制 (7月17日8:00)
- ・引き続き被害情報の収集・把握に努める。

(2) リエゾン(情報連絡員)派遣【7県19市町村へ、のべ63人・日派遣(7/16~7/17)】

○東北地方整備局より1市へ、2人派遣(7/16)。

派遣場所	月日		合 計
	7 16	7 17	
福島県田村市	2		2
合 計	2		2

○中部地方整備局より1県1町へ、のべ6人・日派遣(7/16~17)。

派遣場所	月日		合 計
	7 16	7 17	
三重県	2	2	4
三重県紀宝町		2	2
合 計	2	4	6

○近畿地方整備局より2県9町村へ、のべ22人・日派遣(7/16~17)。

派遣場所	月日		合 計
	7 16	7 17	
奈良県	1	1	2
奈良県野迫川村	1	1	2
奈良県十津川村	1	1	2
奈良県天川村	1	1	2
奈良県黒滝村	1	1	2
奈良県川上村	1	1	2
奈良県上北山村	1	1	2
奈良県下北山村	1	1	2
和歌山県	1	1	2
和歌山県那智勝浦町	1	1	2
三重県紀宝町	1	1	2
合 計	11	11	22

○中国地方整備局より2県5市町へ、のべ17人・日派遣(7/16~17)。

派遣場所	月日		合 計
	7 16	7 17	
岡山県	2	2	4
岡山県備前市	2	2	4
岡山県玉野市	2	2	4
岡山県赤磐市		1	1
岡山県和気町		1	1
岡山県倉敷市		1	1
鳥取県		2	2
合 計	6	11	17

○四国地方整備局より2県4市町へ、のべ16人・日派遣(7/16~17)。

派遣場所	月日		合 計
	7 16	7 17	
高知県	1	1	2
高知県大豊町	1	1	2
徳島県	2		2
徳島県阿南市	2	2	4
徳島県那賀町	2	2	4
徳島県三好市	2		2
合 計	10	6	16

(3) TEC-FORCE の派遣

○埼玉県川越市へ、応急対策（緊急排水）のため、1人派遣（7/17）。

派遣元	派遣内容	7		合計
		17		
関東地整	応急対策	1		1
合計		1		1

○三重県紀宝町へ、応急対策（緊急排水）のため、2人派遣（7/17）。

派遣元	派遣内容	7		合計
		17		
中部地整	応急対策	2		2
合計		2		2

○香川県丸亀市へ、応急対策（緊急排水）のため、のべ2人・日派遣（7/16～17）。

派遣元	派遣内容	7		合計
		16	17	
四国地整	応急対策	1	1	2
合計		1	1	2

○四国地整防災ヘリコプターによる上空からの調査のため、のべ3人・日派遣（7/18）。

派遣元	派遣内容	7	
		18	小計
四国地整	被災状況調査（ヘリ）	3	3
合計		3	3

(4) 災対ヘリコプターによる調査(7月18日～20日)

○四国地整災対ヘリコプターにより那賀川流域を中心に上空からの調査を実施（7月18日）。

○近畿地整災対ヘリコプターにより熊野川流域を中心に上空からの調査を実施（7月18日）。

○近畿地整災対ヘリコプターにより六甲砂防管内を中心に上空からの調査を実施（7月19日）。

○近畿地整災対ヘリコプターにより奈良県栗平地区を中心に上空からの調査を実施（7月20日）。

(5) 災害対策用機械等の出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
東北地整	福島県郡山市富久山町地内(水穴樋管)	内水排除(阿武隈川水系阿武隈川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
東北地整	福島県須賀川市江持地内(昭和町樋管)	内水排除(阿武隈川水系阿武隈川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
東北地整	南川排水機場	内水排除	排水ポンプ車	2	稼働後撤収済	7/16～7/17
関東地整	山梨県笛吹市(白井河原橋上流左岸)	内水排除(笛吹川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
関東地整	栃木県佐野市(菊沢川排水機場)	内水排除(利根川水系菊沢川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
関東地整	栃木県佐野市(菊沢川排水機場)	内水排除(利根川水系菊沢川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
関東地整	埼玉県川越市(九十川排水機場付近)	内水排除(荒川水系新河岸川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/21
中部地整	三重県鈴鹿市白子(鈴鹿市渚排水機場)	内水排除	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/21
中部地整	三重県鈴鹿市白子(鈴鹿市渚排水機場)	内水排除	照明車	1	待機後撤収済	7/16～7/21
中部地整	三重県紀宝町	冠水対応(国道42号)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/17
中部地整	三重県紀宝町	冠水対応(国道42号)	照明車	1	待機後撤収済	7/17
中部地整	静岡県富士市五貫島地先	内水排除(富士海岸出張所元富士排水ひび)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
近畿地整	和歌山県田辺市新庄町地先	土砂崩落に伴う夜間照明確保	照明車	1	稼働後待機中	7/17～
近畿地整	三重県南牟婁郡紀宝町	内水排除(新宮川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	三重県南牟婁郡紀宝町	排水作業の夜間照明確保	照明車	1	待機後撤収済	7/17
近畿地整	和歌山県新宮市相筋	内水排除(新宮川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	和歌山県紀の川市桃山町調月	内水排除(紀の川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	三重県南牟婁郡紀宝町大里	内水排除(新宮川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	兵庫県西宮市塩瀬町生瀬地先	通行規制(国道176号)	対策本部車	1	稼働後撤収済	7/17～7/18
近畿地整	兵庫県姫路市余部区下余部	内水排除(揖保川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	兵庫県姫路市余部区下余部	内水排除(揖保川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17
近畿地整	和歌山県有田市糸我地先	法面復旧作業のため	照明車	2	稼働後撤収済	7/17～7/18
近畿地整	兵庫県高砂市米田町塩市地先	内水排除(法華山谷川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/17～7/18
近畿地整	兵庫県高砂市米田町塩市地先	内水排除(法華山谷川)	照明車	1	稼働後撤収済	7/17～7/18
近畿地整	京都府京都市伏見区桃山大島地先(大島排水機場)	内水排除(山科川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/18
近畿地整	京都府京都市伏見区桃山大島地先(大島排水機場)	内水排除(山科川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/18
中国地整	岡山県瀬戸内市邑久町福中地先(干田川排水機場)	内水排除(吉井川水系吉井川)	排水ポンプ車	3	稼働後撤収済	7/17
中国地整	岡山県瀬戸内市邑久町福中地先(干田川排水機場)	内水排除(吉井川水系吉井川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/17
中国地整	岡山県赤磐市徳富地先(徳富第1排水樋門)	内水排除(吉井川水系吉井川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/17
中国地整	岡山県瀬戸内市邑久町福中地先(干田川排水機場)	夜間作業	照明車	1	稼働後撤収済	7/17
中国地整	萩市三隅	夜間作業(国道191号)	照明車	1	稼働後撤収済	7/17
四国地整	愛媛県大洲市新谷(都谷川樋門)	内水排除(肱川水系矢落川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県長岡郡大豊町怒田地先	地すべり監視	照明車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県四十万市楠島(清水樋門)	内水排除(渡川水系中筋川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県四十万市楠島(清水樋門)	内水排除(渡川水系中筋川)	照明車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県高岡郡日高村下分江尻(神母樋門)	内水排除(仁淀川水系日下川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県高岡郡日高村下分江尻(神母樋門)	内水排除(仁淀川水系日下川)	照明車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	高知県土佐市高岡町丁	内水排除(仁淀川水系仁淀川)	排水ポンプ車	1	待機後撤収済	7/16～7/17
四国地整	徳島県阿南市楠根町(熊谷川排水機場)	内水排除(那賀川水系熊谷川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
四国地整	香川県丸亀市新浜町(西汐入川水門)	内水排除(西汐入川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
四国地整	徳島県阿南市深瀬町(岡崎川樋門)	内水排除(那賀川水系那賀川)	排水ポンプ車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17
四国地整	愛媛県伊予郡砥部町	事前通行規制(国道33号)	待機支援車	1	稼働後撤収済	7/17
四国地整	高知県大豊町怒田地区	崩落斜面監視	衛星通信車	1	稼働後撤収済	7/16～7/17

平成27年台風第12号による大雨等に係る 被害状況等について

内閣府 HP より

※これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。【7月27日時点】

1. 気象状況（気象庁情報：7月27日8：00現在）

(1) 気象の概況と見通し

【概況】

- ・台風第12号は、24日から25日にかけて、大東島地方、沖縄・奄美地方に接近・通過し、その後、26日にかけて九州の西の海上を北上した。26日19時頃、長崎県佐世保市付近に上陸した台風は、九州北部を通過して、26日21時に対馬海峡で熱帯低気圧に変わった。
- ・台風周辺の強い雨雲の影響で、特に、鹿児島県の徳之島で一時間に100ミリを超える猛烈な雨が降り、24時間雨量が400ミリ（7月の観測記録を更新）を超えるなど、沖縄・奄美地方を中心に大雨となった。
- ・また、暖かく湿った空気が入り、前線の活動が活発になった影響で、秋田県や岩手県を中心に東北北部で雨量が多くなった。
- ・大東島地方や奄美地方を中心に猛烈な風が吹いた他、海上は、大東島地方や沖縄・奄美地方、九州の西海上で大しけとなった。

(2) 大雨等の状況（7月24日0時～27日7時）

・1時間降水量（アメダス観測値）

鹿児島県伊仙	114.5ミリ	25日	20時24分まで
鹿児島県内之浦	94.0ミリ	27日	6時22分まで
沖縄県奥	68.5ミリ	25日	15時59分まで
秋田県角館	61.0ミリ	25日	12時33分まで
東京都世田谷	49.5ミリ	24日	14時52分まで
鹿児島県小宝島	46.0ミリ	26日	4時52分まで
鹿児島県天城	45.0ミリ	25日	23時41分まで
茨城県鉾田	42.0ミリ	24日	17時11分まで
鹿児島県与論島	42.0ミリ	25日	20時13分まで
茨城県つくば	41.5ミリ	24日	16時23分まで

・24時間降水量（アメダス観測値）

鹿児島県伊仙	444.0ミリ	26日	10時20分まで
鹿児島県内之浦	281.0ミリ	27日	7時00分まで
沖縄県奥	251.5ミリ	26日	14時00分まで
秋田県藤里	194.5ミリ	25日	19時10分まで
秋田県角館	191.0ミリ	25日	21時30分まで
岩手県沢内	176.0ミリ	25日	18時00分まで
鹿児島県天城	150.5ミリ	26日	10時30分まで
秋田県八森	141.5ミリ	25日	18時40分まで
鹿児島県与論島	139.0ミリ	26日	12時30分まで
長野県御嶽山	136.5ミリ	24日	0時10分まで

・期間降水量（アメダス観測値）

鹿児島県伊仙	444.0ミリ
鹿児島県内之浦	286.0ミリ
沖縄県奥	251.5ミリ
秋田県角館	209.5ミリ
岩手県沢内	209.5ミリ
秋田県藤里	207.0ミリ
鹿児島県天城	150.5ミリ
秋田県田沢湖高原	147.0ミリ
秋田県八森	145.0ミリ
鹿児島県与論島	139.0ミリ

・最大風速

沖縄県南大東	31.7m/s(南南東)	25日	6時11分
鹿児島県笠利	31.6m/s(南南西)	26日	0時15分
沖縄県北大東	30.5m/s(南)	25日	6時29分
沖縄県旧東	22.8m/s(南南西)	25日	8時46分
鹿児島県沖永良部	22.6m/s(北西)	25日	17時48分
鹿児島県天城	22.1m/s(南西)	25日	23時31分
沖縄県宮城島	19.9m/s(西南西)	25日	17時18分
鹿児島県中之島	19.2m/s(西南西)	26日	4時42分
愛媛県瀬戸	18.6m/s(南)	26日	12時34分
長崎県野母崎	18.0m/s(南東)	26日	16時08分

・最大瞬間風速				鹿児島県伊仙	29.8m/s(西)	25日20時50分
沖縄県南大東	43.7m/s(南)	25日5時46分		鹿児島県天城	29.3m/s(南西)	25日23時39分
沖縄県北大東	41.7m/s(南)	25日6時04分		鹿児島県名瀬	28.7m/s(南)	26日1時16分
鹿児島県笠利	40.1m/s(南南西)	26日0時14分				
沖縄県旧東	39.1m/s(南南東)	25日6時19分				
鹿児島県中之島	33.9m/s(南南西)	26日6時04分				
鹿児島県沖永良部	31.9m/s(北西)	25日17時39分				
鹿児島県喜界島	30.9m/s(南南西)	25日23時36分				

(3) 波浪の状況 (7月24日0時~27日7時)

・波浪最高値

【気象庁所管】

鹿児島県屋久島 6.8m 26日1時00分

2. 人的・物的被害の状況 (消防庁情報：7月27日8:00現在)

(1) 台風第12号に伴う被害

都道府県名	人的被害					住家被害					非住家被害	
	死者	行方不明者	負傷者			全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他
			重傷	軽傷	程度不明							
人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	
長崎県				1								
熊本県				1								
鹿児島県							1	4	28			5
合計				2			1	4	28			5

※鹿児島県徳之島町では概ね90棟の浸水被害が発生しているが、床上、床下の被害が判明していないため、判明しているもののみ記載。

<< 負傷者の状況 >>

(警察庁情報：7月27日7:30現在)

【長崎県】・長崎市において、56歳男性が屋外で脚立を使用して作業中に転倒し、頭部打撲の軽傷(7月26日)

【熊本県】・天草市において、48歳男性が屋根で作業中に転倒し、両肘負傷の軽傷(7月26日)

(2) 齊内川(さいないがわ)堤防決壊に伴う被害

・秋田県大仙市清水地区：床下浸水約10棟

3. その他の状況

(1) 土砂災害(国土交通省情報：7月27日6:30現在)

ア. 土石流等

・被害情報なし

イ. がけ崩れ(1県で1件)

・鹿児島県1件(宇検村1)※人的住家被害なし

(2) 河川(国土交通省情報：7月27日6:30現在)

ア. 被害状況(国土交通省：27日6:30現在、消防庁：27日8:00現在)

○齊内川の堤防決壊(秋田県大仙市)

・25日14:40頃、秋田県大仙市清水の齊内川(さいないがわ)にかかる瀬川橋の上流およそ300mのところ、高さ4mほどの堤防が長さ20mにわたり決壊。

・大仙市清水の金鐘(かなぶみ)地区の34世帯120人に避難指示発令(25日14:55発令→26日8:00解除)。

・近隣に孤立化した民家が1軒あり、消防により2名を救助(ボート1台、車両5台)。

・人的被害なし。床下浸水約10戸。

・秋田県において、堤防決壊箇所の応急復旧作業(大型土のう積み(370袋)及び背後盛土)を実施(25日18:30開始→26日17:00完了)。

4. 国土交通省の対応

ア. 体制等

・国土交通本省警戒体制(7月25日7:06)

・引き続き被害情報の収集・把握に努める。

イ. リエゾン(情報連絡員)派遣

・東北地方整備局湯沢河川国道事務所より、秋田県大仙市へ2名派遣(7月25日)

会員だより

様々な災害復旧事業を通じて



長野県上田建設事務所
整備課計画調査係

田邊 将樹

(平成24～26年度 長野県建設部河川課災害係在籍)

1. 長野県の概要

長野県は、本州の中央部に位置し、東西約120km、南北約212kmと南北に長く、総面積は、13,562km²で、北海道、岩手県、福島県について、全国第4位の面積を有する県です。

県内には、糸魚川～静岡構造線、中央構造線が走っており、糸魚川～静岡構造線の東側はフォッサマグナ地帯になり新第三紀層が広く分布しています。

気象の状況は、南部地方は太平洋側、北部地方は日本海側、内陸地方は中央高地式気候で、気温は寒暖の差が大きくなっています。降雨分布も地域差が大きく、西部から南部にかけては、年降水量が2,000mmに達しますが、東北部は1,000mm前後の小雨地帯となっています。

災害の発生状況ですが、平成7年の梅雨前線豪雨、平成16年の台風23号、平成18年の梅雨前線豪雨などの異常気象により査定決定額が200億円を

超える年が、平成に入ってから4度ありました。近年は、梅雨前線、台風などの降雨による被害は比較的少なく、ゲリラ豪雨による局所的な被害が多くなっているのが特徴です(図-1)。

2. 様々な災害復旧事業を通じて

私は、平成24年度から平成26年度まで建設部河川課災害係にて災害復旧事業を担当しました。

もともと、民間企業に勤めており、主にトンネルやコンクリート構造物の計画、設計、施工、維持管理に従事していましたが、故郷の長野県に何かしらの形で貢献したく、一念発起の末、平成21年度に県職員に転職しました。

初任地となった現地機関には、3年間在籍し、道路や河川の施工に携わっていたものの、幸いなことに(?)災害らしい災害を一度も経験しませんでした。災害係への配属の内示をいただいた際は、頭が真っ白になり、不安ばかりが頭をよぎっ

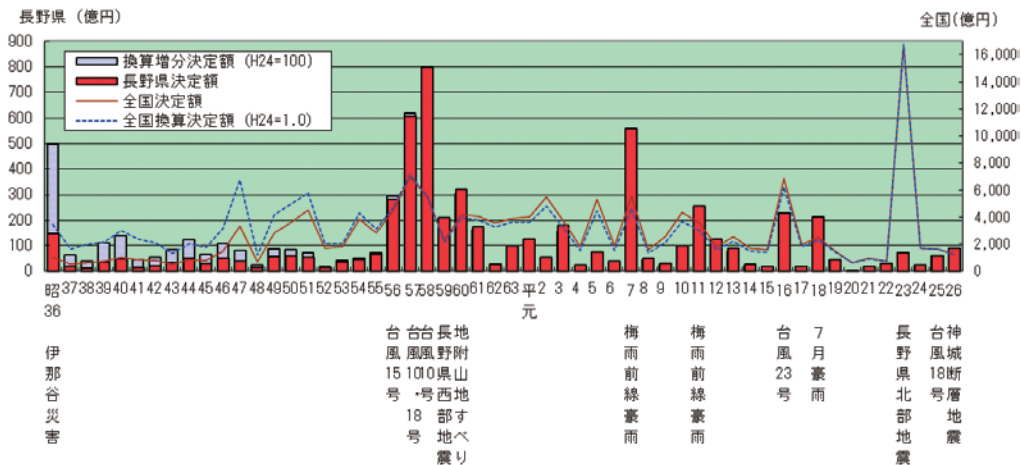


図-1 年災別決定額

会 員 だ よ り

ていたことを今でも覚えています。

河川課災害係は係長を含めて技術職 3 名、事務職 2 名の計 5 名体制です。公共土木施設災害復旧事業に関する全般を担当しており、査定の随行や、本省防災課（以下「防災課」という。）への事前打合わせ及び設計変更協議、市町村成功認定等の業務を行っています。河川課に属していますが、河川災以外の災害に関しても防災課への協議は災害係が対応をしています。私のように行政土木の経験が少ない人間にとって、短期間に数多くの、しかも多種にわたった災害復旧事業に携われるのは、キャリアアップの観点から絶好の機会となりました。

以後、災害復旧事業を通して、私が感じたことをいくつか記載したいと思います。

(1) 凍上災害（平成24年災）を通じて

異動後、最初の査定が凍上災害でした。平成24年は県内各地で異常低温が続きました。凍結指数比率が1を超えた月が異常気象名になりますが、県内4地区において、2月低温、3月低温、4月低温の異常気象が発生しました。

査定は7月30日から8月2日の4日間で行われましたが、それまでの準備が多忙を極めました。平成24年4月から6月まで、災害係の技術職員1名が東日本大震災の復旧事業の応援派遣となり、実質担当レベルの技術職員は私1名となりました。しかも、凍上災害のメカニズムや採択要件、異常気象の証明等すべてについて見聞きするのが初めてという状態でした。当時はなりふり構わず過去の災害に関与されていた方に確認をし、形にしていっていったことが印象深いです。

特に、大変だったのが、被災が本当に今冬のものであること及び復旧方法の妥当性（具体的には舗装を復旧する際の舗装構成の妥当性）を証明することでした。これは、①被災直後の被災状況写真を確実に残すことと（写真-1）、②どれだけ合理的に試掘をできるかにかかっていました。防災課から講師をお招きし、講習会を通じて現地機関や市町村の担当者に周知を図ったりもしましたが（写真-2）、限りある時間、お金、マンパワーの中でそれをどう実行していくかについての配



写真-1 凍上災害被災状況



写真-2 凍上災害講習会の様子

慮が私には欠けていました。

ルールを説明するのは当然ですが、それを実行する現地機関や市町村の置かれている状況を踏まえ、効果的な運用を可能とするスキームまで考えることができればよかったです。

(2) 台風18号による災害（平成25年災）と事務の簡略化

平成25年9月15日から16日にかけて、県内では台風18号の影響により、各地で大雨となりました。台風は県南部を通過し、阿智村では工場内に土砂が流入し軽傷者が出たほか、各地で住居の損壊・浸水、停電、断水、道路通行止め、列車の運休がありました。アメダスの浪合観測所では日最大1時間降水量73.5mm、日降水量263.5mmを観測し、ともに1978年の統計開始から最大となっています。

公共土木施設については、441箇所、5,097,042

会員だより

千円（査定決定額）の被害がありました。査定は第3次査定として11月18日～22日の5日間、第4次査定として11月25日～29日の5日間、の計10日間行われ、事務班も含め延べ20班が投入されました。降雨災害の被害としては、平成18年以来の規模となりました。

件数が多いということで、連日、現地機関との申請内容の打合せや防災課との事前打合せを行っていた記憶があります。

そういった合間を縫って、気象資料（等雨量線図や被災箇所的位置図）を作成する必要があったのですが、長野県ではそれらを手作業で作成していたため、441箇所を落とし込むには非常に手間がかかり、位置の精度も悪くなるという問題が生じていました。

そこで、箇所図だけでも作成の簡素化を図るため、GIS（Geographic Information System）を利用した箇所図作成を試みました。今までは管内図等に手書きで箇所を落とし込んだものを現地機関や市町村から提出してもらい、それを災害係で全県図に手書きで落とし込むという作業でしたが、箇所の位置情報（平面直角座標系のX座標とY座標）のみの提出にとどめ、フリーソフトであるQGIS（Quantum GIS）を用い、箇所図の自動作成を目指しました（図-2）。

幸いにもGISの扱いに長けている同僚が河川課内にいたので、色々指導していただき、査定申請資料としての体裁を整えることができました（図-3）。現在は、QGISを利用した作成方法をマニュアル化し、原則箇所図作成の手書きを廃止しています。

申請箇所が数カ所だと、圧倒的に手書きの方が早いというご意見を現地機関からいただいたのですが、位置情報を職員誰もが閲覧できる統合型GIS（長野県独自のGIS）に掲載するというのも平行して試み、データの保存性と情報の共有化の向上という点も含めてご理解を得ているところです。

災害復旧事業もどんどんICT（Information and Communication Technology）を取り込み、技術者が純粋な技術論に注力できる状態を作っていくことが重要だと考えます。

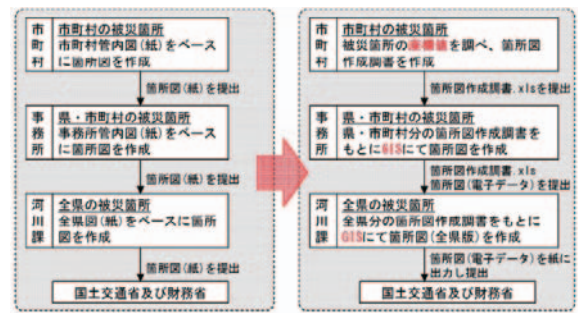


図-2 箇所図の簡素化

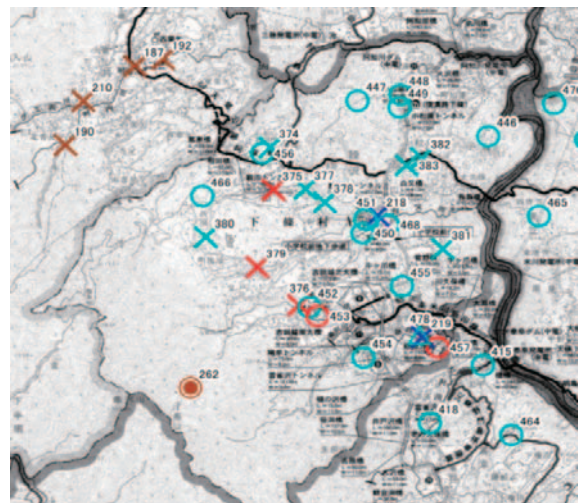


図-3 QGISによる箇所図の作成例

(3) 台風8号及び神城断層地震による災害（平成26年災）を通じて

平成26年7月9日17：40頃、木曾郡南木曾町梨子沢（なしざわ）において、台風8号の接近に伴う豪雨により土石流が発生し、死者1名、軽傷者3名、全壊家屋10棟、一部損壊家屋3棟、国道19号、木曾川への土砂流出及びJR中央本線橋梁の流失等の甚大な被害が生じました。

公共土木施設の被害については、流路工L＝660m、大型砂防えん堤1基、県道橋1橋、町道橋3橋、また(一)木曾川への埋塞土V＝約27,000m³等となっており、9箇所、2,196,952千円（査定決定額）の被害がありました（写真-3、4）。

また、平成26年9月27日、秋晴れの行楽客を襲った御嶽山の噴火は、死者58名、行方不明者5名という私たちが経験したことのない甚大な被害を記録しました。

さらに、平成26年11月22日22：08頃、白馬村神

会員だより

城（北緯 $36^{\circ}41.5'$ 、東経 $137^{\circ}53.4'$ 、地震の深さ： 5 km ）にてM6.7の大地震が起こり、負傷者46名、全壊81戸、半壊163戸、一部損壊1,821戸等の甚大な被害が生じました。

公共土木施設の被害については、神城断層に沿って流れる姫川の護岸が 1.7 km に渡り被災したのをはじめ、白馬村、小谷村を中心に、234箇所、6,216,673千円（査定決定額）の被害がありました（図-4）。

いずれの災害も、人知を超えた災害であり、被災直後は人間の無力感を痛感しました。

地震災については年末に近い災害であり、降雪による現地調査の難しさ、申請準備に従事できる職員不足、調査・設計会社の人材不足、調査機械（ボーリング等）の不足、メカニズムと復旧方法の関



写真-3 梨子沢流路工の被災状況



写真-4 梨子沢大型砂防えん堤の被災状況（ハッチングは吹き飛んだ袖部）

連付けの難しさ、等様々な問題が顕在化し、2か月査定への道のりが非常に険しいものとなりました。官民含めた現在の土木業界が抱えている問題が顕著に表れたのではないのでしょうか。

そういった状況下においても、現地機関や市町村、調査・設計会社の皆さんが昼夜問わず復旧に向け尽力されており、私も立ち止まって居る暇ではなく、私の立場でできることを全うするしかないと考え、申請者と防災課との橋渡しに専念するよう心がけました。

土石流災害も地震災も結果的には非常に高い査定率となりホッとしましたが、査定を通じて改めて気付かされたことが2点ほどありました。

- ① 原形復旧は必ずしも技術的、合理的な復旧方法ではないため、改良的要素を入れる余地を常に考える必要がある。
- ② 復旧工法の比較検討は、実現可能な工法の中で、経済性が最も優位なものを選定するが、早期復旧を目的としている災害復旧事業においては、スピード感を判断の材料とする場合もあり得る。

2点とも、業務を担当する技術者の力量が試されます。経験の少ない私の場合、色々な業務に携わり、得た知識や経験を知恵として使えるよう、それらを使い捨てしないように心掛けたいと思います。

会員だより

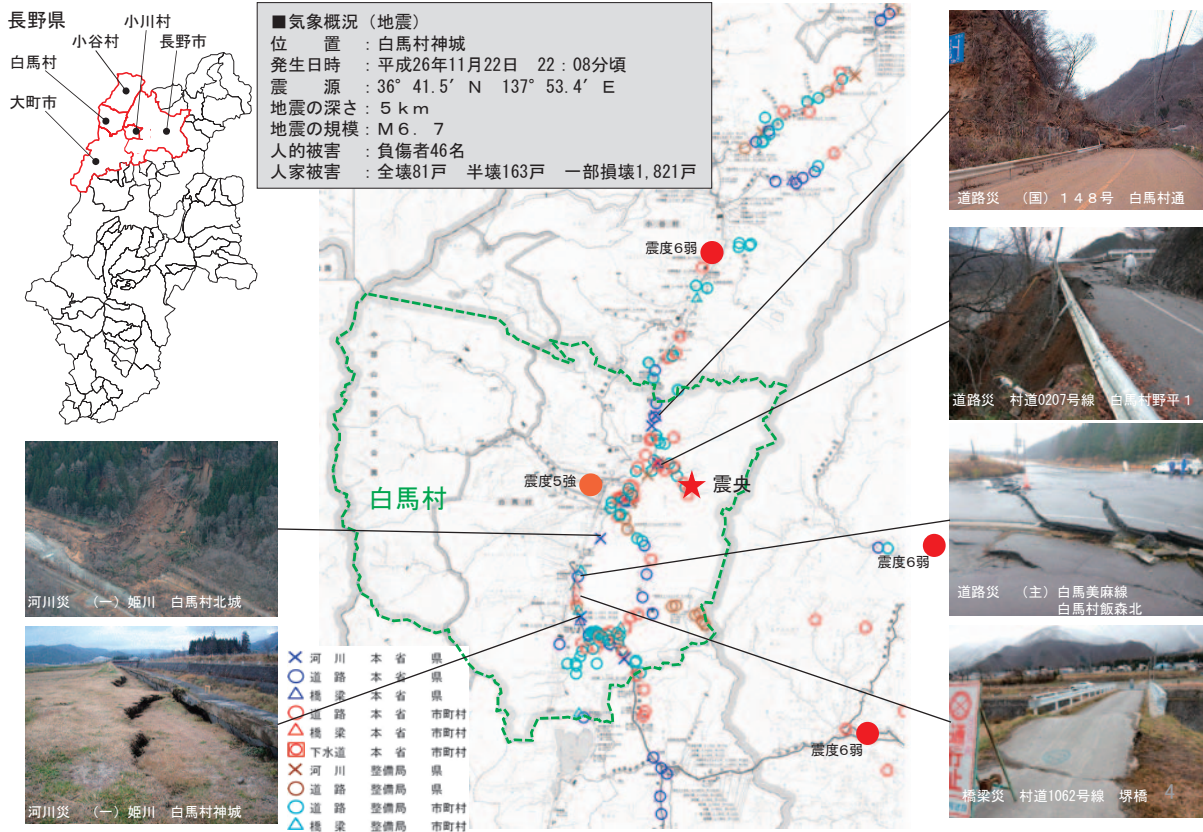


図-4 神城断層地震の被害の概要

3. 信州 ACE (エース) プロジェクト

長野県では、平均寿命日本一の県民の皆さんの一層の健康増進を図るため、「信州 ACE (エース) プロジェクト」という取組を展開中です。

ACEは生活習慣病の予防に大切な Action (体を動かす)、Check (健診を受ける)、Eat (健康に食べる) の頭文字をとった名称です。

具体的には、効果のある歩き方や体操など体を動かす取組を続ける、家族揃って健診を受ける、塩分や野菜など健康を意識した食生活を送る、といったことです。

信州 ACE(エース) プロジェクト

A ction [体を動かす]
C heck [健診を受ける]
E at [健康に食べる]

世界で一番(ACE)の健康長寿を目指しましょう

(<http://ace.nagano.jp>)

災害査定は頭も使いますが、体も動かします。健康体でなければ査定を乗り切ることはできません。プロジェクトの内容は県 HP の専用サイトで紹介しているのでご覧いただき、それぞれで健康づくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。

4. おわりに

近年は、従前のような台風、梅雨前線豪雨などの災害が少なく、ゲリラ豪雨などの局所的な降雨、地震災、凍上災など特殊な災害が多くなっています。

これらの災害については、事例等も少なく、国土交通省防災課をはじめとして関係機関の皆様のお指導を頂きながら事業を進めているところです。この場をお借りし、お礼を申し上げます。

災害は、いつ発生するかわかりません。常日頃から災害に対する心構えを持ち、技術力の研鑽を図り、災害が発生した際には、早期の復旧を目指し、県民の皆様が安心して暮らしていけるよう頑張っています。

防災課だより

記 者 発 表

平成27年7月15日から23日までの間の台風11号及び大雨による災害復旧事業の査定の簡素化について（お知らせ）

平成27年8月20日 国土交通省水管理・国土保全局防災課

平成27年7月15日から23日までの間の台風11号及び大雨による被災地域の早期復旧を支援するため、災害復旧の迅速化に向け、次のとおり自治体の災害復旧事業の査定を簡素化することといたしましたのでお知らせします。

■対象自治体

兵庫県、和歌山県

※机上査定：災害査定は実地にて行っているところであるが、申請額が300万円未満等に限っては机上にて災害査定を行っている。

机上査定額の拡大

実地によらずに査定ができる限度額を拡大：

3百万円未満（通常）→ 1千万円未満

防災課だより

人 事 異 動

〔水管理・国土保全局関係人事発令〕

△平成27年8月13日

氏 名	新 所 属	備 考
西口 学	出向（警察庁長官官房付）	水管理・国土保全局水政課水利調整室長
本位田 拓	水管理・国土保全局水政課水利調整室長	大臣官房付

訂 正

平成27年8月1日月刊防災に誤りがありました。

お詫びして訂正致します。

表紙・目次

誤) 各県コーナー 「宮城県」……………宮崎県土木部防災砂防課

正) 各県コーナー 「宮城県」……………宮城県土木部防災砂防課

◇出版図書のご案内（全国防災協会） 災害復旧事業申請に必携◇

新刊のご案内（平成 27 年 7 月発売）

平成 27 年版（B5 版、総頁 1,190 余）

災害復旧工事の設計要領

- ・災害復旧事業は、被災後速やかに復旧することが事業に携わる者の使命
- ・そのためには、災害査定設計書を迅速かつ的確に作成することが必要
- ・最新の土木工事標準歩掛りに準拠し、災害復旧事業に必要な歩掛り等を体系化し、本設計要領を活用することで迅速かつ的確な査定設計書を作成可能

改定新版

（平成 26 年版）（A5 版 総頁 1,104）

災害関係法令例規集

- ・災害査定時、災害関係業務に携わる方の実務書
- ・負担法をはじめとした法令、実施手続きなどを体系的にわかりやすく整理

新版発売

平成 26 年版（A5 版 156 頁、カラー印刷）

災害査定の手引き

- ・災害査定をされる方も受ける方も必携
- ・災害査定業務に係わる基本的な事項を図面、写真、査定設計書、ポンチ絵等を簡潔にわかりやすく整理

図書案内及び購入申し込み詳細については、公益社団法人全国防災協会のホームページをご覧ください。

<http://www.zenkokubousai.or.jp>

平成27年 発生主要異常気象別被害報告

平成27年 8月14日現在 (単位：千円)

	冬期風浪及び風浪		豪雨		地すべり		融雪		地震		梅雨前線変雨		台風		その他		合計		
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額	
北海道	3	<144,000>	63	1,334,500	1	123,000	2	800,000							1	130,000	70	<144,000>	
青森	1	200,000	14	355,000													15	555,000	
岩手			8	102,000			2	500,000			1	4,500			1	6,000	12	612,500	
宮城			10	250,500													10	250,500	
秋田					3	830,000					47	1,550,000					50	2,380,000	
山形	<1>	<350,000>			1	100,000											<1>	<350,000>	
福島	1	350,000			3	110,917					41	490,480			1	20,000	45	621,397	
茨城													2	33,000			2	33,000	
栃木													10	93,000			10	93,000	
群馬			13	380,976													13	380,976	
埼玉													3	85,000			3	85,000	
千葉															(1)	(2,000)	(1)	(2,000)	
東京															1	2,000	2	11,000	
神奈川													1	3,500			1	3,500	
新潟	3	560,000					19	233,500									22	793,500	
富山			5	175,000	2	469,000									1	30,000	8	674,000	
石川	9	3,689,372	1	3,000	1	110,000											11	3,802,372	
福井							3	120,000					7	76,200	1	16,000	11	212,200	
山梨			2	47,000									16	362,600			18	409,600	
長野			5	99,000			3	110,000									8	209,000	
岐阜			14	460,000	1	4,150,000	7	235,000					13	171,872	7	50,500	42	5,067,372	
静岡												4	88,500	3	143,000			7	231,500
愛知												1	55,000					54	807,410
三重																	19	915,000	
滋賀																	19	915,000	
京都					1	260,000							(4)	(65,000)			(4)	(65,000)	
大阪													38	407,900			39	667,900	
兵庫													(1)	(200,000)			(1)	(200,000)	
奈良			2	15,000									11	424,500			11	424,500	
和歌山			19	164,700	2	490,000							(7)	(50,200)			(7)	(50,200)	
鳥取													172	2,563,900			172	2,563,900	
島根					2	750,000							6	79,500	43	1,805,350	51	1,899,850	
岡山			1	4,000									(2)	(70,000)	(2)	(70,000)	(2)	(70,000)	
広島			15	71,400									(1)	(40,000)	(1)	(40,000)	(1)	(40,000)	
山口					1	100,000							305	5,341,200	2	25,000	340	6,190,900	
徳島													(4)	<240,000>			(4)	<240,000>	
香川													158	1,995,022			158	1,995,022	
愛媛													<11>	<132,100>			<11>	<132,100>	
高知			21	288,500	1	830,000			1	19,000	62	346,200	67	1,686,900			67	1,686,900	
福岡					1	90,000							<7>	<605,000>			<7>	<605,000>	
佐賀													43	1,021,400			107	2,216,600	
長崎			26	162,400	(1)	(5,000)							55	565,500			154	2,786,500	
熊本			37	155,658	4	150,000							24	224,000			24	224,000	
大分					1	3,500,000							1	28,000			1	28,000	
宮崎			33	344,000													(1)	(5,000)	
鹿児島																	71	550,200	
沖縄																	(3)	(10,900)	
札幌																	593	4,107,485	
仙台																	30	210,383	
さいたま																	46	1,110,000	
千葉																	(1)	(9,800)	
横浜																	146	2,152,300	
川崎																	(6)	<86,000>	
相模原																	11	105,000	
新潟																			
静岡																			
浜松																			
名古屋																			
京都																			
大阪																			
堺																			
神戸																			
岡山																			
広島																			
北九州																			
福岡																			
熊本																			
補助計	<4>	<494,000>																<37>	<1,710,400>
直轄計	17	4,943,372	372	5,695,234	26	12,172,917	36	1,998,500	1	19,000	1,149	11,793,511	1,155	21,420,480	(1)	(2,000)	(23)	(412,900)	
合計	18	6,143,372	373	5,845,234	26	12,172,917	36	1,998,500	1	19,000	1,150	11,891,511	1,168	22,181,871	15	279,500	2,787	60,531,905	

※上段 () 内書きは、下水道・公園分、< >内書きは港湾・港湾に係る海岸分である。